

実習の心得（住中2年生）

住吉総合福祉センター

原田 徹

1. 積極的・主体的に実習をしてください。

実習は決められた期間ですが、実習という貴重な経験は心に残ることが多いのです。しっかりとその日その日の**自己の目標**をもって積極的に取り組んでください。

2. わからないことはわからないままにしない、勝手に判断・行動しない

物理面からみても施設の構造や配置、スタッフの顔と名前、利用者の方などわからないことだらけだと思います。少し見慣れた頃に実習終了といったことは短期間の実習につきものです。遠慮せずスタッフに声をかけてください。特に利用者の方を介助するときは、なおさら勝手に判断し行動しないでスタッフの指示に従ってください。その指示された内容がよくわからない場合もあるかも知れませんが、しっかりと**確認し把握してから行動**に移ってください。

また、利用者さんに行動にびっくりすることもあるかと思いますが、その時は遠慮なくびっくりしてください。そして、その行動に対して**「なぜ？」「どうして？」という気持ちを大切に**してください。彼、彼女たちも、気持ちを分かってもらえないことに**「なぜ？」「どうして？」**と感じているはずです。

3. 挨拶や言葉使いに気をつけてください

利用者・スタッフのみならずご家族の方や外部からの来客も多数あります。すれ違ったり、お会いされたときは**必ず挨拶**をしてください。

また、利用者の方をスタッフは信頼関係や、利用者の個性から愛称でお呼びしている場合があります。スタッフから特別の指示がない限りは、利用者の方を**〇〇さん**とお名前でお呼びください。

また、介護や援助は「やってあげる」ものではありません。利用者の方と同じ視点に立ち、困難な部分をお手伝いさせていただいているに過ぎません。言葉使いにはお気をつけください。

4. 守秘義務について

実習期間中において知り得た利用者やその家族の**個人情報に関することは決して公言しない**で下さい。

☆ 今回の実習では、利用者の方へのサービス提供中の時間を、利用者の方の了承を得て実習にご協力いただくことになります。これも、将来の福祉、すべての人にとっての**「⑤だんの④らしの①あわせ**」をみなさんと共に考えたいという願いからです。実習生として**謙虚な姿勢と態度**で、またひとつでも多く学びを深めるため積極的に取り組んでください。